

大先輩 軍需工場社宅の 日々語る

本校前身 谷山高校商業科卒

本紙では、これまで太平洋戦争中に本校の敷地付近で操業していた巨大軍需工場「田辺航空工業」について調査し報道してきた。そのような中で、「工場の社宅である田辺住宅に戦前から住んでいたのだが、当時の話を証言したい。また、鹿児島南高校の前身の谷山高校時代のことについてお話ししたい」との声を、濱本常貴さん(鹿児島市常盤町在住)からいただいた。

濱本さんは、昭和16年現在の鹿児島市谷山生まれ。谷山高校に在籍されていたときは、生徒会長として、現在にも引き継がれている生徒会規則の制定に尽力された。また、バレーボール部に所属し活躍されていた。今回、濱本さんから頂いた証言を、濱本さん自筆の回想スケッチと、今回初公開の田辺航空工業の本館写真とともに紹介する。

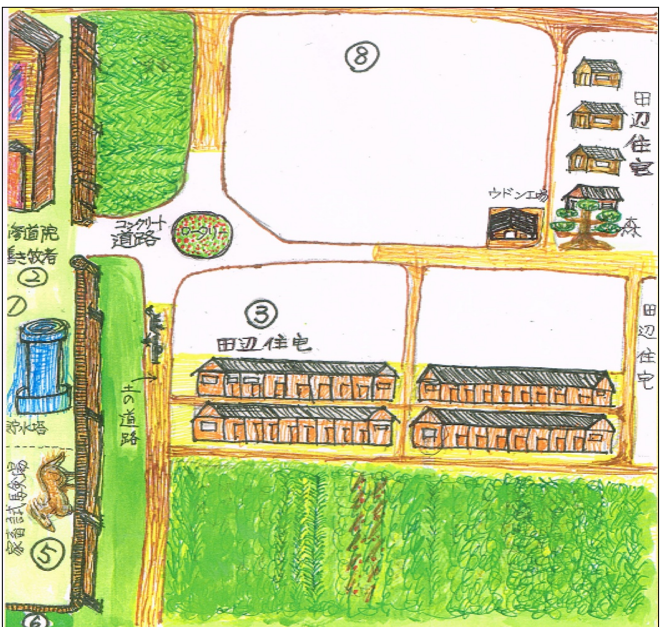
幼少期 戦前の田辺住宅

父親は 田辺で熱処理担当

私が生まれる前、父は旭硝子尼崎工場(兵庫県)でガラスを溶解する熱処理作業現場で仕事をしていました。その後、父は谷山に帰り軍需工場「田辺航空工業」に入社します。これまでやってきた

熱処理の仕事を生かし、ジュラルミンの飛行機部材の製造をしていました。田辺航空工業の前身は、昭和3年に造られた田辺鉄工所です。昭和10年に軍需部品を作るように軍から命じられています。昭和18年には、田辺航空工業株式会社がスタートします。一般の従業員と一緒に、学徒挺身隊の人たちが仕事をするようになります。6千人体制となり

濱本さんが終戦前後に住んでいた田辺航空工業の社宅「田辺住宅」(③の住宅)の周辺図。本校敷地は、⑧と記された付近と考えられる。社宅は木造の長屋づくり。周囲は畑で、工場の貯水塔や、戦後の家畜試験場の存在が分かる。

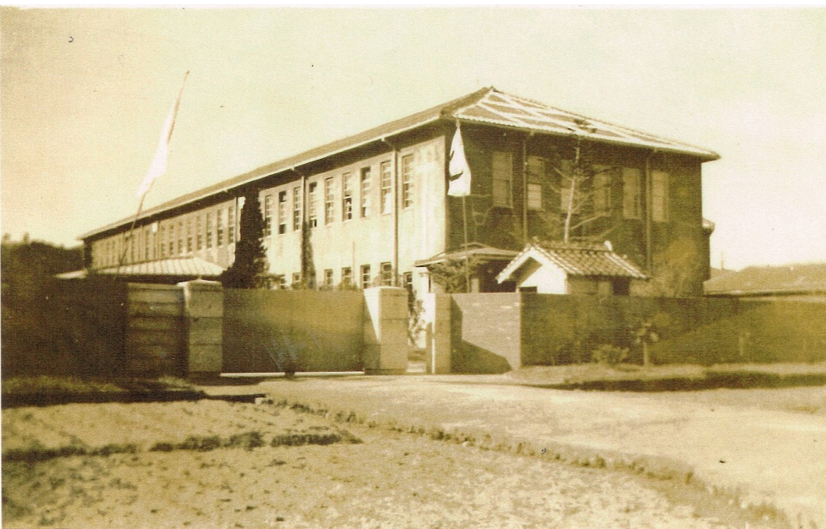


工場本館写真 初公開



はまもとつねみ
濱本常貴さん(75歳)

1941年(昭和16年)鹿児島郡谷山町生まれ。上福元町の田辺航空工業の社宅にて谷山小1年生までを過ごす。1949年(昭和24年)に西戸崎小2年生に転入。その後、鹿児島市立和田中学校を経て、1957年(昭和32年)谷山高校商業科(現鹿児島南高校)に入学。出光興産を退職後、現在「ワタミの宅食」鹿児島中央営業所まごころスタッフ。



戦後、善き牧者修道会の所有となった(1949年昭和24年)頃の、元田辺航空工業本館事務所の写真。現在の善き牧者幼稚園付近。この建物のみ空襲で焼け残った。門前に畑が広がる。(濱本さん提供写真)

う(銃砲の発射薬を詰める容器)が転がっていました。昭和19年になると、諏訪の山間部にある防空壕への避難が始まりました。このころは、麦やキャベツ、トマトやトウモロコシのほか、カボチャやからいもの茎、ウサギなど、今では考えられない食生活を送っていました。昭和20年の3月18日から8月6日にかけて、8回にわたる鹿児島大空襲がありました。そのようななかで、3月には、田辺航空工業は、大口に疎開

田辺航空工業株式会社

1943年(昭和18年)から現在の鹿児島市西谷山1-2丁目、谷山中央8丁目(現在の善き牧者幼稚園、鹿児島南高校、谷山中学校付近)で操業を開始した巨大軍需工場。本紙第2号で「本校は巨大軍需工場跡」として工場が空襲を受けるスクープ写真とともに報道した。

南九州最大の軍需工場であり、航空機部品を造り、大村海軍工廠(かいぐんこうしょう)(長崎県大村市)に送っていた。主翼・機体などの多様な部品製造の中で特許式水上偵察機のフロート(水上で離発着するための舟型の浮き)は国内最大の生産量を誇った。鹿児島南高校の敷地は当時社宅第2区だったと考えられる。今回、証言された濱本さんが居住していた社宅は現在の谷山中学校付近と考えられる。工場は、千人を超える10代の勤

労学徒、養成工も勤務した。本紙第7号では、戦況悪化の中、旧制大口中学校と大口高等女学校(両校とも伊佐市大口、現県立大口高校)に疎開工場が設置され、生徒たちが部品製造に従事していた様子を明らかにして報道した。今回、濱本さんの提供により、田辺工場の本館建物の写真を初公開する。鹿南タイムズでは、今後とも軍事機密につつまれた工場の全容解明に向けて調査活動が続け、継続的に報道していく。

終戦後

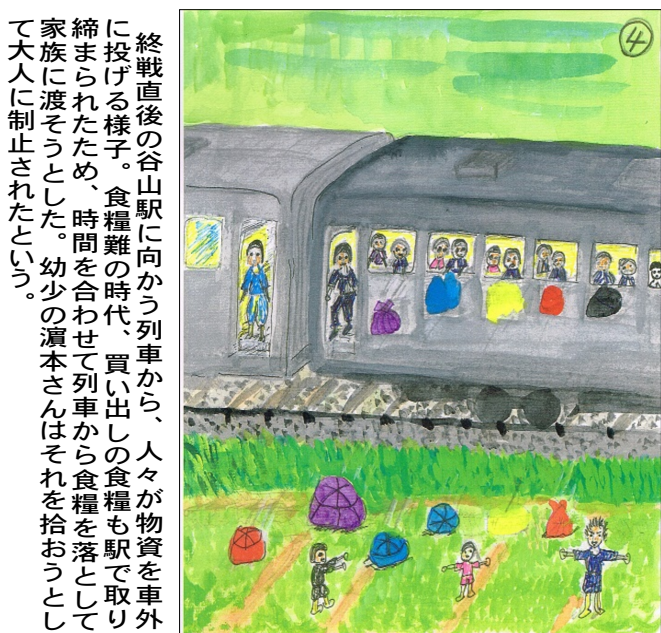
本館前は薬品臭

8月6日には、警戒警報が発令されて、避難命令が出されました。私は、両親と伊作街道を逃げた記憶があります。

8月15日には、太平洋戦争が終戦します。この日に田辺航空工業は即日解散しました。その後、アルミニウムの弁当箱や農機具、鍋や釜、自転車や大八車(荷物の輸送に使われていた人力荷車)などを生産する6百人規模の「新生工業」がスタートしました。また、「新生病院」もスタートしました。病院の前で薬品臭



田辺航空工業の本館事務所建物の正面玄関。写真の人々は戦後の新生工業時の員か。田辺工場の建物がこれほど鮮明に残っているのはめずらしい。(濱本さん提供写真)



その後、昭和28年の11月には新生病院は閉鎖されたということが書いてあったのを見たことがあります。平成10年に、愛の聖母園はカトリック鹿児島司教区に移管されました。

